

2015年3月期 第3四半期決算

説明資料

株式会社 **トクヤマ**

2015年1月30日



CONTENTS

- 1 2015年3月期 第3四半期決算
- 2 2015年3月期 業績予想
- 3 トクヤママレーシア
- 4 補足資料

① 2015年3月期 第3四半期決算

1. 決算概要
2. 営業利益増減分析
3. セグメント別売上高
／営業利益
4. 借入契約の財務制限条項
抵触解消について

1. 決算概要

連 結 (前年同期比)

(億円未満切捨て)

(億円)

	2014年 3月期 第3四半期累計	2015年 3月期 第3四半期累計	増 減	
			金額	%
売上高	2,079	2,220	+141	+7
営業利益	125	158	+33	+27
経常利益	98	110	+12	+12
当期純損益	74	△788	△863	-
1株当たり当期純利益(円)	21.53	△226.73		
為替(円/\$)	99	107		
国産ナフサ価格 (円/kℓ)	65,700	68,900		

定性情報(前年同期比)

(売上高) 2,220億円(7%増)

増収要因 : 多結晶シリコン・電子工業用高純度薬品・医薬品原薬などの販売数量増、石油化学製品・苛性ソーダなどの販売価格是正、新たに加わった連結子会社の営業開始による増収

(営業利益) 158億円(27%増)

増益要因 : 販売数量の増加、石油化学製品の損益改善

1. 決算概要

連 結（前年同期比）

（億円）

	2014年 3月期 第3四半期累計	2015年 3月期 第3四半期累計	増 減	
			金額	%
売上高	2,079	2,220	+141	+7
営業利益	125	158	+33	+27
経常利益	98	110	+12	+12
当期純損益	74	△788	△863	-
1株当たり当期純利益(円)	21.53	△226.73		
為替(円/\$)	99	107		
国産ナフサ価格 (円/kℓ)	65,700	68,900		

定性情報(前年同期比)

(経常利益) 110億円(12%増)

増益要因 : 営業利益の増加、休止部門費の減少

減益要因 : 支払利息の増加、トクヤママレーシアでの試作費用計上

(当期純損益) △788億円(赤字転落)

増益要因 : 経常利益の増加

減益要因 : トクヤママレーシアの多結晶シリコン製造設備の減損損失計上等による特別損益の悪化

1. 決算概要

連 結（前期末比）

（億円）

	2014年 3月末	2014年 12月末	増 減
総資産	5,763	5,645	△117
自己資本	2,296	1,537	△759
自己資本比率	39.9%	27.2%	△12.6ポイント
有利子負債	2,407	2,904	+496
D/Eレシオ	1.05	1.89	+0.84
ネットD/Eレシオ*	0.74	1.15	+0.41
1株当たり純資産(円)	660.18	441.98	

定性情報(前期末比)

*ネットD/Eレシオ：(有利子負債－現預金・現金同等物)／自己資本

(総資産)

減少項目： トクヤママレーシアの多結晶シリコン製造設備の減損損失計上による有形固定資産の減少

(自己資本)

減少項目： 減損損失計上に伴う利益剰余金の減少

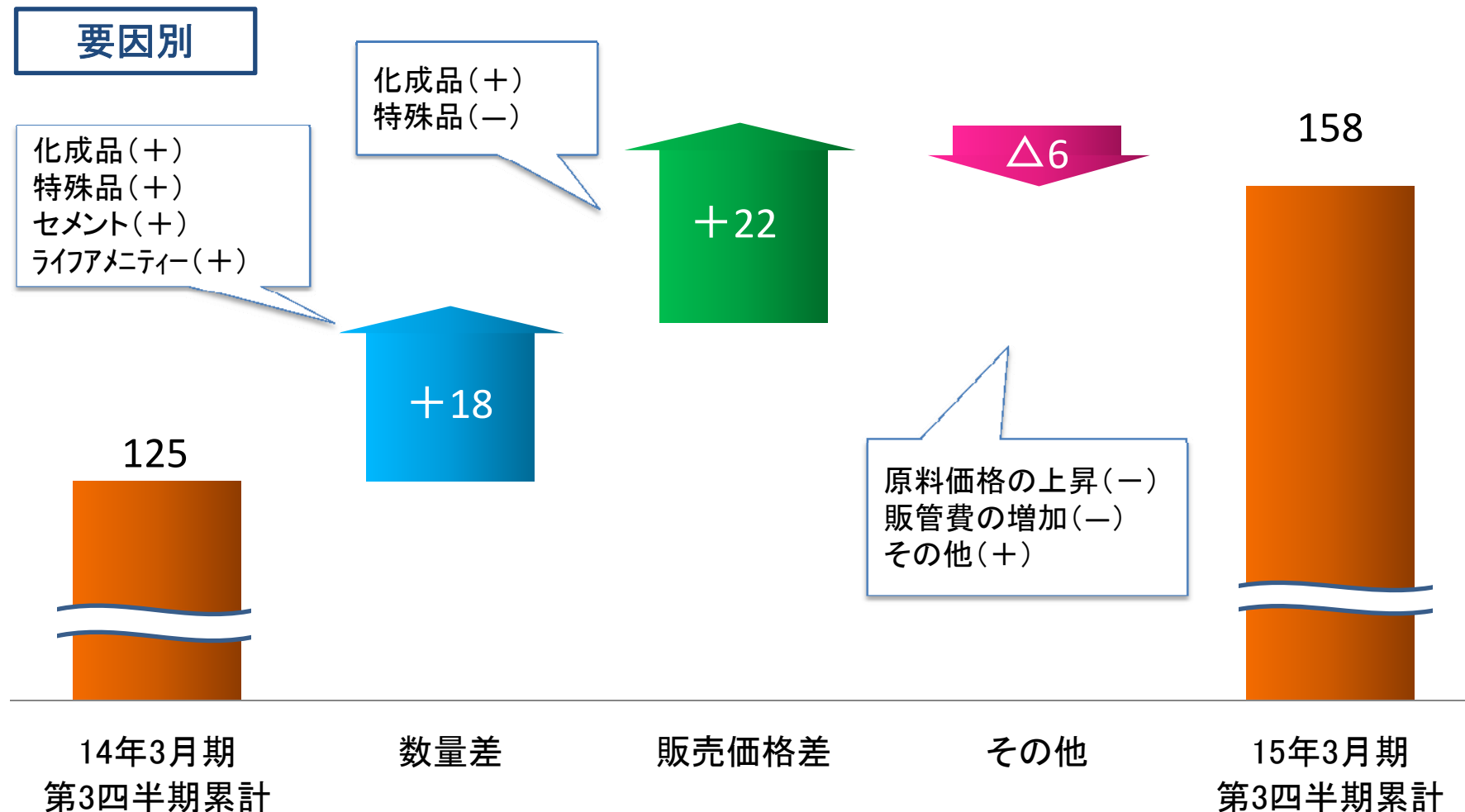
(有利子負債)

増加項目： 中期コミットメントライン契約に基づく長期借入金の増加

2. 営業利益増減分析

(前 年 同 期 比)

(億 円)



(注) 数量差 = (当期の販売数量 - 前年同期の販売数量) × (前年同期の販売単価 - 前年同期の変動費単価)
 販売価格差 = (当期の販売単価 - 前年同期の販売単価) × 当期の販売数量
 その他は変動費単価差及び固定費差など

3. セグメント別売上高／営業利益 (前年同期比)

(億円)

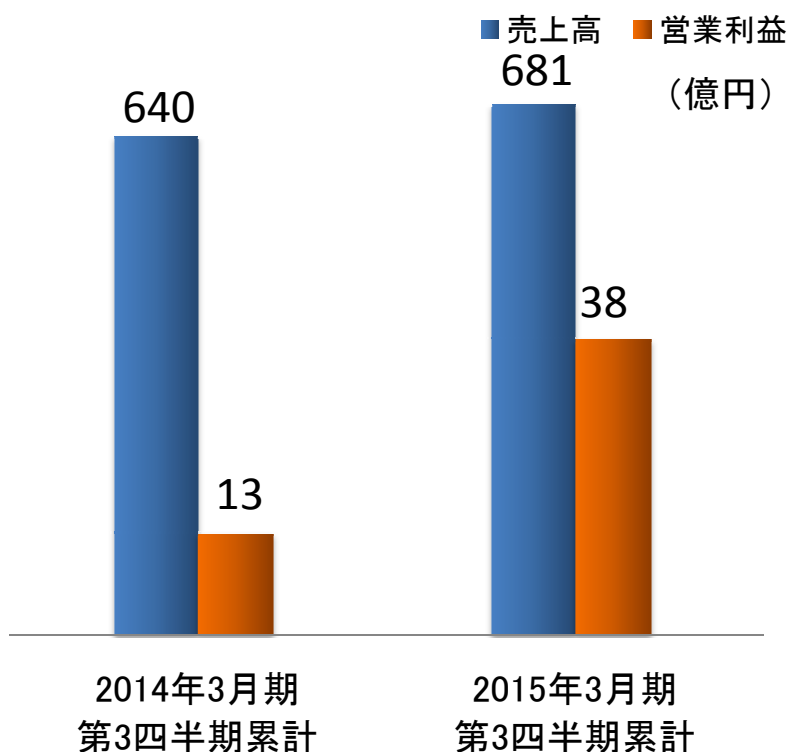
	2014年3月期 第3四半期累計		2015年3月期 第3四半期累計		増 減			
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	%	営業利益	%
化成品	640	13	681	38	+40	+6	+24	+172
特殊品	352	23	384	36	+32	+9	+13	+58
セメント	581	47	603	35	+22	+4	△12	△26
ライフアメニティー	405	30	438	36	+32	+8	+5	+19
その他	357	34	383	44	+25	+7	+9	+28
計	2,337	150	2,491	190	+153	+7	+40	+27
セグメント間消去・ 全社費用	△258	△24	△270	△31	△12	-	△6	-
連結決算	2,079	125	2,220	158	+141	+7	+33	+27

(注)各事業セグメントの売上高・営業利益にはセグメント間取引を含む

3. セグメント別売上高／営業利益 （前年同期比）

化成品

増収増益



定性情報

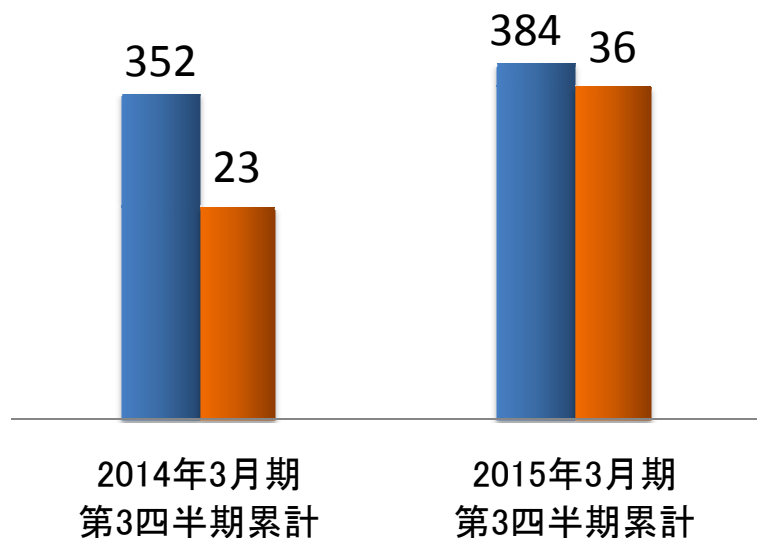
- (苛性ソーダ)
 - ・国内向け販売数量の増加
 - ・原料価格上昇に対応した価格是正
- (ソーダ灰・塩化カルシウム)
 - ・トクヤマ・セントラルソーダ営業開始による増収
- (塩ビモノマー)
 - ・国産ナフサ価格の上昇による原料コストの増加
 - ・アジア市況の改善及び円安による損益改善
- (塩ビ樹脂)
 - ・住宅着工数落ち込みによる販売数量減
 - ・国産ナフサ価格上昇に伴う原料コストの増加
 - ・原料価格上昇に対応した価格是正

3. セグメント別売上高／営業利益 （前年同期比）

特殊品

増収増益

■ 売上高 ■ 営業利益
(億円)



定性情報

(多結晶シリコン)

- ・半導体向けは、スマートフォンなど携帯端末の需要の伸長を背景に販売数量増
- ・太陽電池向けは、トクヤママレーシアからの出荷開始により販売数量増

(乾式シリカ)

- ・半導体用研磨材向けを中心に販売数量増

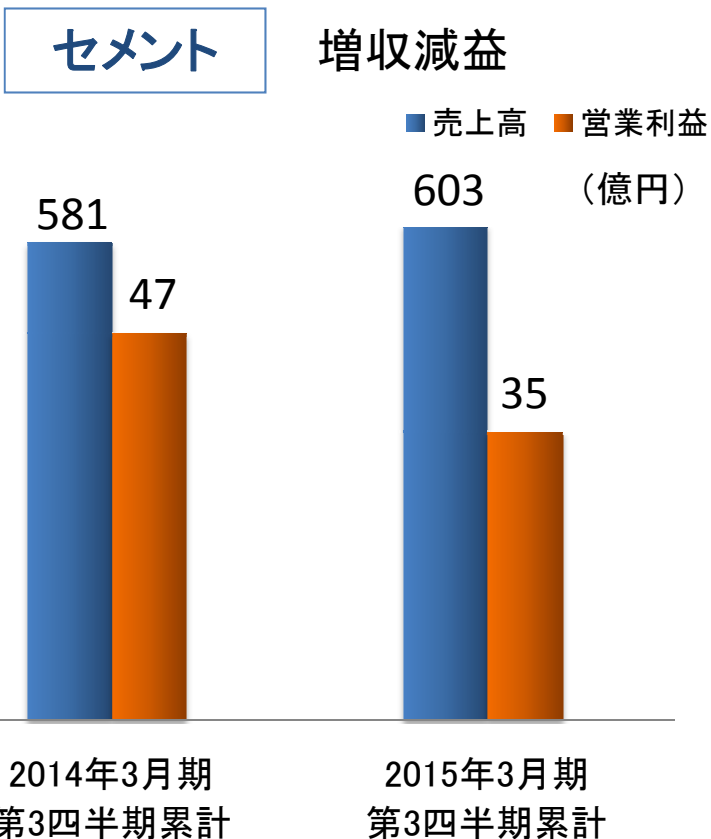
(窒化アルミニウム)

- ・パワーデバイスやLED向けを中心に販売数量増

(電子工業用高純度薬品)

- ・半導体及び液晶製造向けに販売数量増

3. セグメント別売上高／営業利益 （前年同期比）



定性情報

(セメント)

- ・人手不足、天候不順による工事遅れの影響で国内販売数量減
- ・需要が堅調なアジア向けに輸出数量増
- ・セメントタンカー新造等による物流コストの増加
- ・広島トクヤマ生コン営業開始による増収

(資源環境事業)

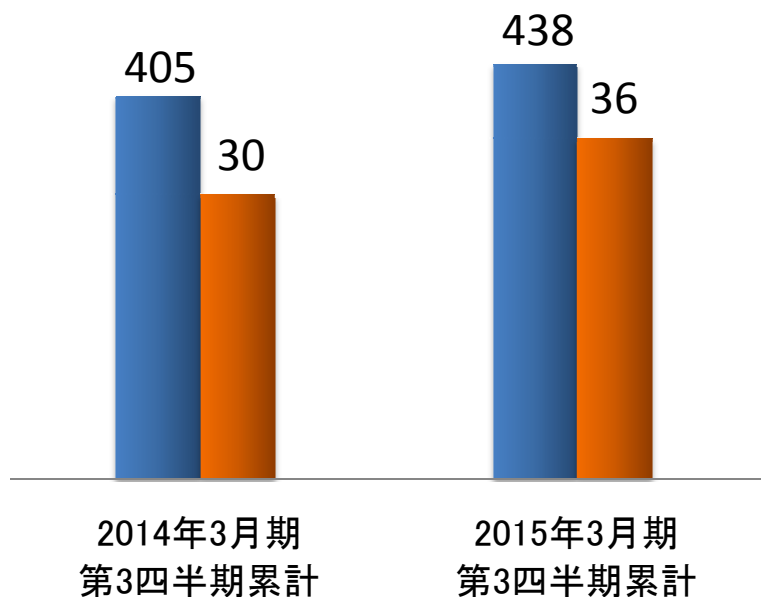
- ・廃棄物受入量は横ばい

3. セグメント別売上高／営業利益 （前年同期比）

ライフアメニティー

増収増益

■ 売上高 ■ 営業利益
（億円）



定性情報

（医薬品原薬）

・ジェネリック医薬品向けを中心に販売数量増

（微多孔質フィルム）

・天津工場稼働開始により販売数量増

（ポリオレフィンフィルム）

・コンビニ向けを中心に販売数量増

・原料価格上昇に対応した販売価格是正

（ガスセンサ）

・ガス警報器や空気清浄機用途を中心に販売数量増

（医療診断システム）

・血液検査向けに販売数量増

・コストダウンによる利益率改善

（樹脂サッシ）

・消費増税による需要の反動減で販売数量減

4. 借入契約の財務制限条項抵触解消について

・2015年3月期第2四半期決算において、財務制限条項に抵触した(株)三菱東京UFJ銀行とのタームアウト型中期コミットライン契約及び(株)三菱東京UFJ銀行を幹事とする8社の協調融資によるリボルビング・クレジット・ファシリティ契約について、その条項の適用免除と取引継続を申し入れ、当社の要請に同意し取引を継続する旨の通知を受領した。

・2015年3月期期末決算時において、(株)日本政策投資銀行、(株)三菱東京UFJ銀行及び三井住友信託銀行(株)をそれぞれ幹事とする複数社の協調融資によるシンジケートローン契約について財務制限条項に抵触のおそれがあったため、金融機関各位と財務制限条項の適用免除及び契約の一部変更の申し入れを行い継続して交渉を進めてきたが、今般合意に達し適用の免除を受けるとともに、変更契約を締結した。

これらの結果、現在は財務制限条項への抵触及びそのおそれについては解消。上記に伴う金利負担の変更は無く、発生費用の増加も限定的であるため、当期の連結業績予想に与える影響は軽微。

※詳細については、本日付「借入契約の財務制限条項抵触解消に関するお知らせ」をご参照下さい。

2 2015年3月期 業績予想

1. 業績予想
2. セグメント別業績予想



1. 業績予想

連結（通期、前期比）

10/31公表値より修正なし

（億円）

	2014年3月期 実績	2015年 3月期 予想(10/31公表)	増減	2015年3月期 第3四半期累計
売上高	2,873	3,090	+216	2,220
営業利益	202	210	+7	158
経常利益	149	150	+0	110
当期純損益	102	△750	△852	△788
1株当たり純損益(円)	29.37	△215.58		△226.73
為替(円/\$)	100	(※) 104		107
国産ナフサ価格 (円/kℓ)	67,300	(※) 69,700		68,900

(※)2015年3月期予想(10/31公表)の為替、
国産ナフサ価格も10/31公表のものを掲載

今後の事業環境については、急激な円安進行や原燃料価格の変動など、不透明な部分はあるものの、現時点で業績は想定の範囲内で推移している。そのため、2014年10月31日に公表した業績予想を据え置く。

2. セグメント別業績予想

連結（通期、前期比）

（億円）

	2014年3月期 実績		2015年3月期 予想(10/31公表)		増減		2015年3月期 第3四半期累計	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
化成品	864	22	960	45	+95	+22	681	38
特殊品	524	60	595	60	+70	△0	384	36
セメント	789	66	815	50	+25	△16	603	35
ライフアメニティー	570	48	580	45	+9	△3	438	36
その他	472	41	510	55	+37	+13	383	44
計	3,222	240	3,460	255	+237	+14	2,491	190
セグメント間 消去・全社費用	△349	△37	△370	△45	△20	△7	△270	△31
連結決算	2,873	202	3,090	210	+216	+7	2,220	158

(注)各事業セグメントの売上高・営業利益にはセグメント間取引を含む

③ トクヤママレーシア

1. 現状と今後のスケジュール
2. 減損損失計上に至った原因について



1. 現状と今後のスケジュール

【トクヤママレーシア】

- ・太陽電池用シリコンウエハメーカー等へ製品出荷を開始。
- ・第2期プラント(PS-2)は2015年度後半に予定しているプラントの定期修繕時に、必要な設備改良を実施しフル稼働へ引き上げる予定。



トクヤママレーシア

2. 減損損失計上に至った原因について

2014年10月31日にトクヤママレーシアPS-1製造設備の減損損失計上を公表。これを受け、同日付で監査役会(社外監査役を含む)を中心とした調査委員会を設置。

同委員会が、事実経緯の調査・検証を通じ、減損損失計上に至った原因を分析し、会社側に報告を行った。

当社は、報告内容を検証し、さらなる調査を追加して分析を行った。

以下、その検証結果を報告する。

なお、本報告は減損損失計上に至った原因を分析することで、このような損失を二度と生じさせることのないよう、必要な改善・改革を確実に実行し、当社が信頼を回復し、今後も社会に貢献する企業として恒久的な事業継続を目指すことを目的としたものである。

2. 減損損失計上に至った原因について

減損損失計上に至った原因に関する検証結果

1. 計画立案当初の多結晶シリコン市況をベースに、将来の価格下落リスクも織り込み当社の企業規模に比して極めて大きな事業計画への投資を決定した。しかし、その後計画時の想定を大きく超える市況変動があり、結果として、投資額に対するリスク回避の検討が不足していた。

2. 計画の進行に応じて経営環境の変化等の課題が生じた際、事業性の再確認、戦略の変更等を都度検討し対応してきたが、環境の悪化を埋め合わせる変更や修正が出来なかった。

3. 主要機器選定等の重要な局面において、技術的検証やリスク検討を行ったが、事業展開のスピード・コスト競争力を重視したため、計画の事業規模の大きさに照らして必要な時間・人財を投入し、計画実現の確実性を期すことが結果として不十分であった。しかも、主要機器選定時において、仮に多少難があっても当社の生産技術、運転技術のノウハウを持ってすれば、高純度の製品製造は可能との思いがあったため、スピード重視と相まって、当初の検証が不十分となり、その後の問題や課題の大きな原因となった。

2. 減損損失計上に至った原因について

4. これらの問題に関する経営判断に際し、会社組織内での情報伝達が一部不十分であったため、本来の目的である多面的・客観的検討を加え、必要に応じ支援するプロジェクトの推進組織は十分機能しなかった。

5. トップ自らプロジェクトの責任者になった組織編成は、人的リソースの投入やプロジェクトの推進には効果的であったが、その後の環境変化や問題発生の際には、適切な変更、修正が結果として不十分になった。

以上の検証結果をもとに、今後改善策を策定し、実行する

なお、調査委員会が調査・検証した結果には、コンプライアンス(法令遵守)上の違反での指摘は無い

4 補足資料

1. 連結財務諸表(要約)
2. 業績推移
3. 業績予想(上期・下期)
4. セグメント別業績予想
(上期・下期)
5. 太陽電池市場動向
6. 多結晶シリコン市場動向

1. 連結財務諸表(要約)

損益計算書

(億円)

	2014年 3月期 第3四半期累計	2015年 3月期 第3四半期累計	増減	
			金額	%
売上高	2,079	2,220	+141	+7
売上原価	1,512	1,593	+81	+5
販管費	441	467	+26	+6
営業利益	125	158	+33	+27
営業外損益	△26	△48	△21	-
経常利益	98	110	+12	+12
特別損益	△4	△882	△877	-
税前当期純利益	93	△771	△865	-
法人税等	18	17	△1	△10
当期純損益	74	△788	△863	-

4 補足資料

1. 連結財務諸表(要約)

貸借対照表

(億円)

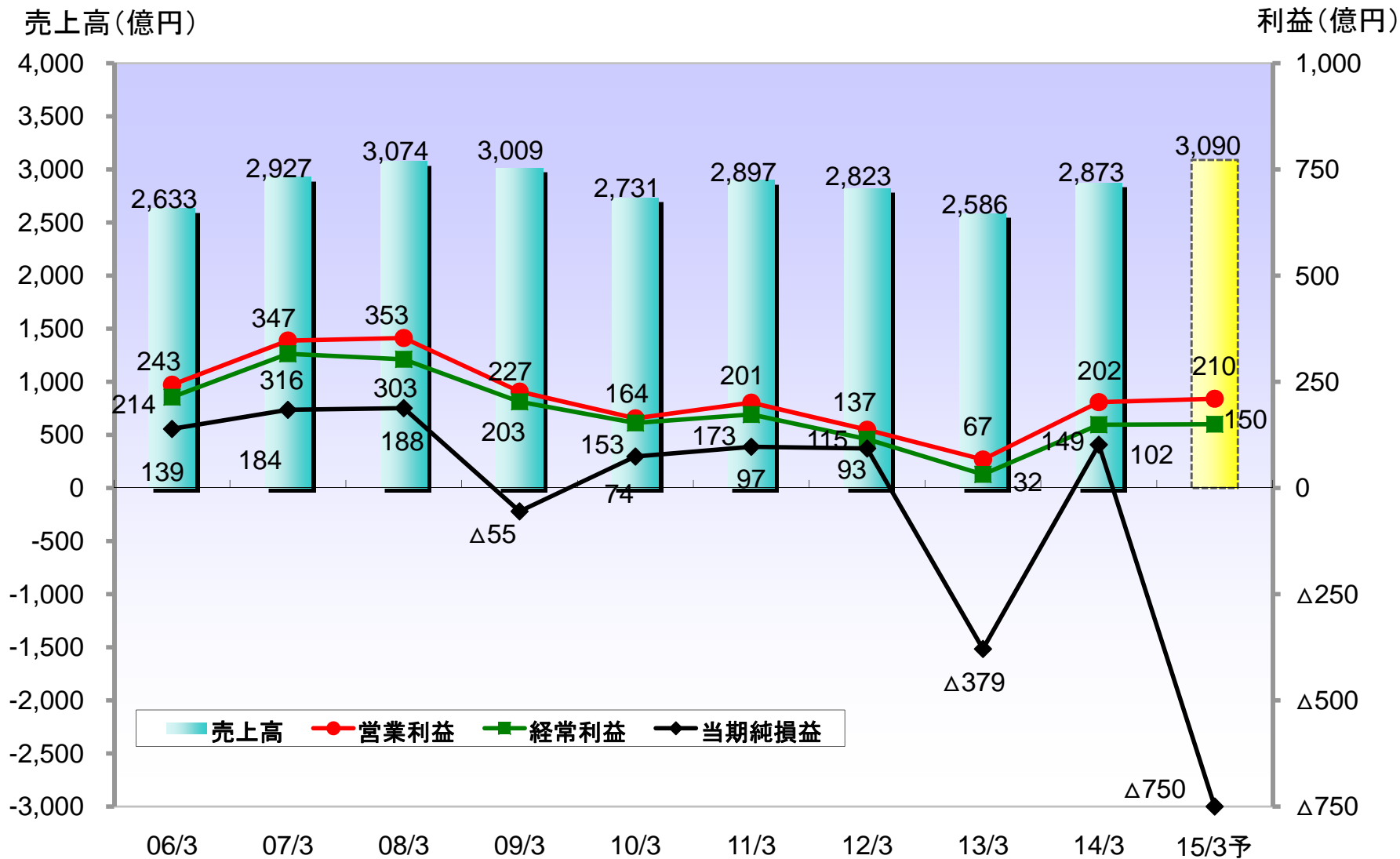
	2014年 3月末	2014年 12月末	増減	
			金額	%
資産合計	5,763	5,645	△117	△2
流動資産	1,916	2,446	+529	+28
有形固定資産	3,231	2,548	△682	△21
無形固定資産	101	108	+6	+7
投資その他の資産	514	542	+28	+5

	2014年 3月末	2014年 12月末	増減	
			金額	%
負債合計	3,398	4,040	+642	+19
流動負債	992	1,285	+292	+29
固定負債	2,405	2,754	+349	+15
純資産合計	2,364	1,604	△759	△32

4 補足資料

2. 業績推移

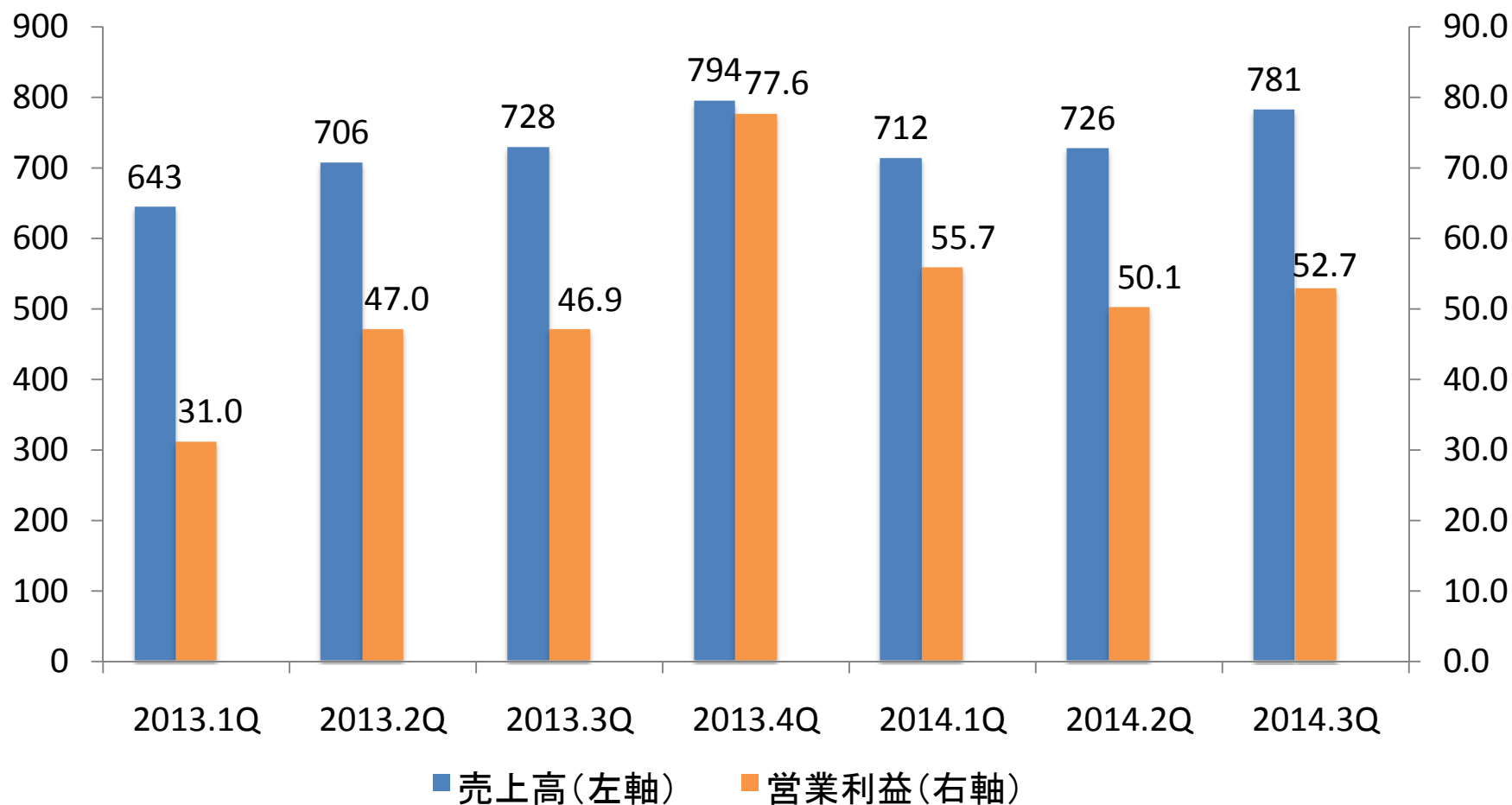
連 結 (通 期)



2. 業績推移 (四 半 期)

連結

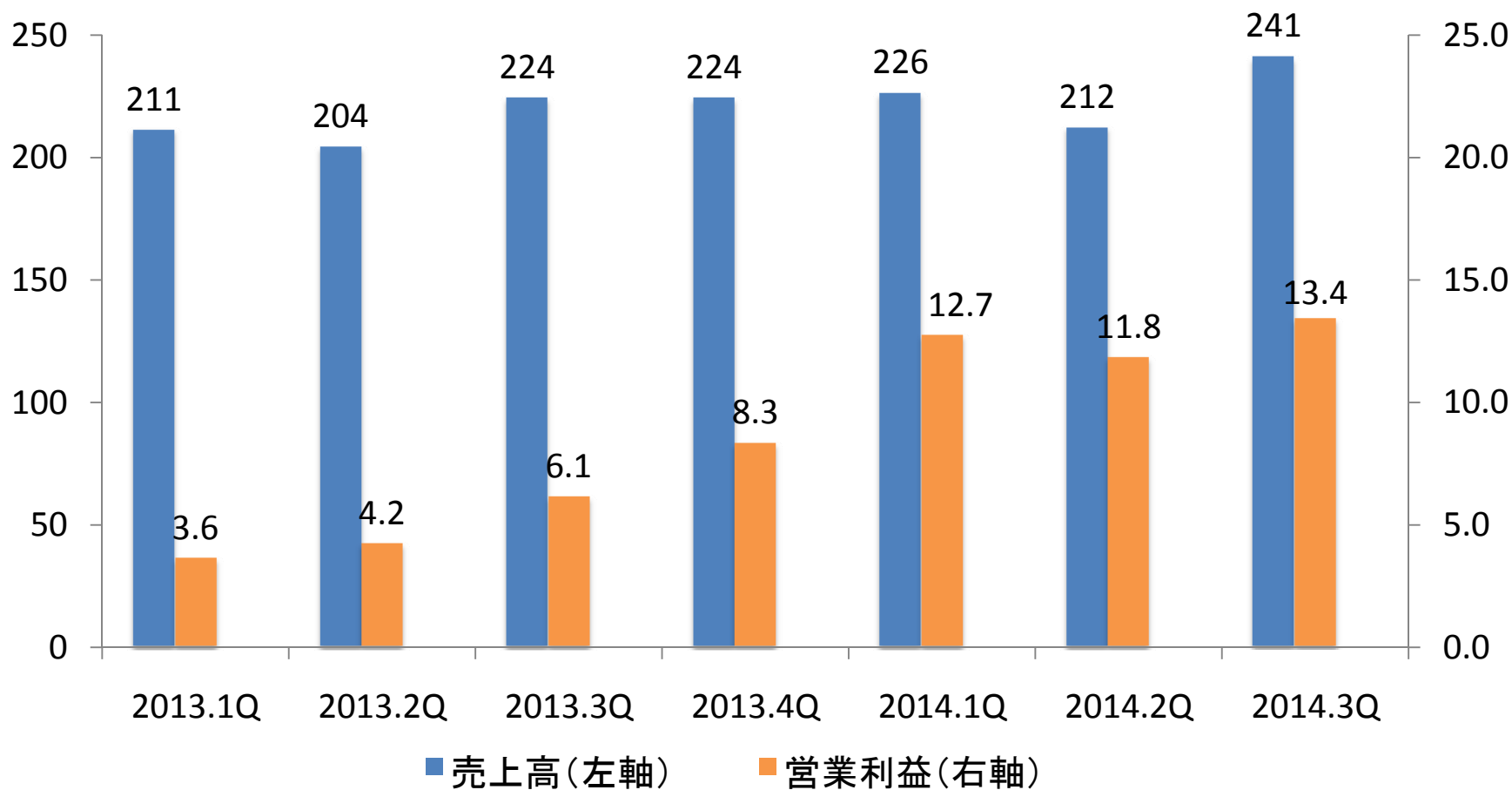
(億 円)



2. 業績推移 (四 半 期)

化成品

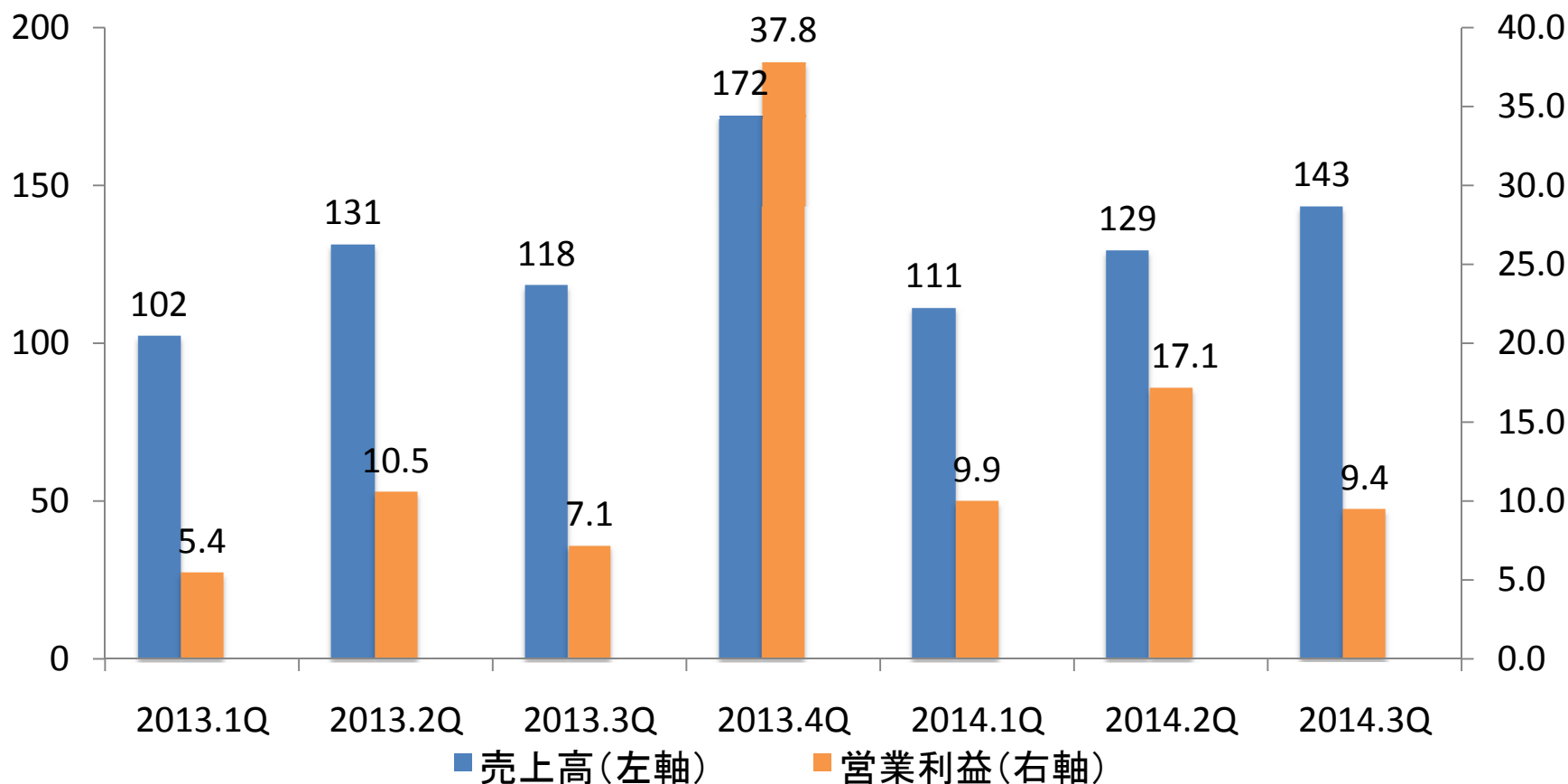
(億 円)



2. 業績推移 (四 半 期)

特殊品

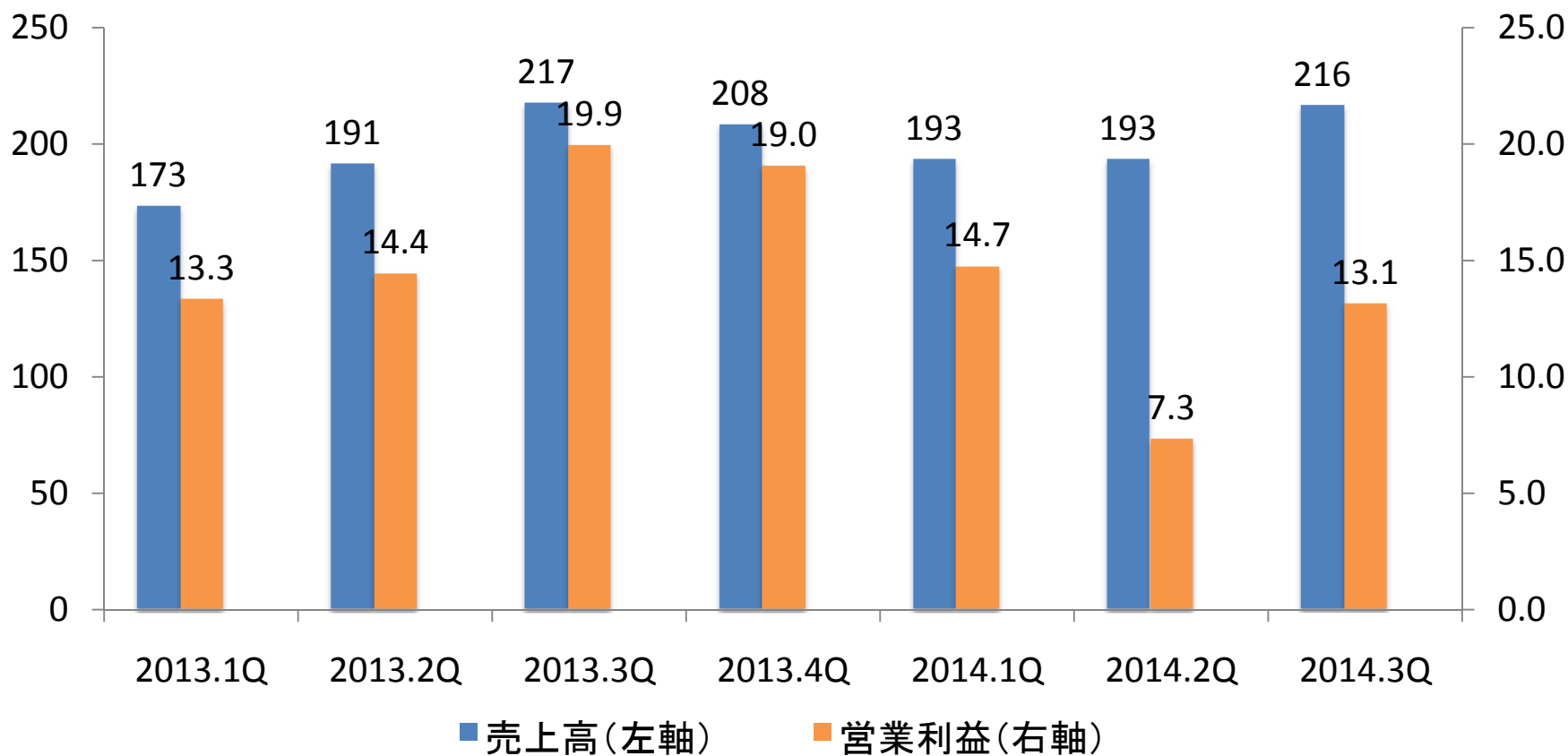
(億 円)



2. 業績推移 (四 半 期)

セメント

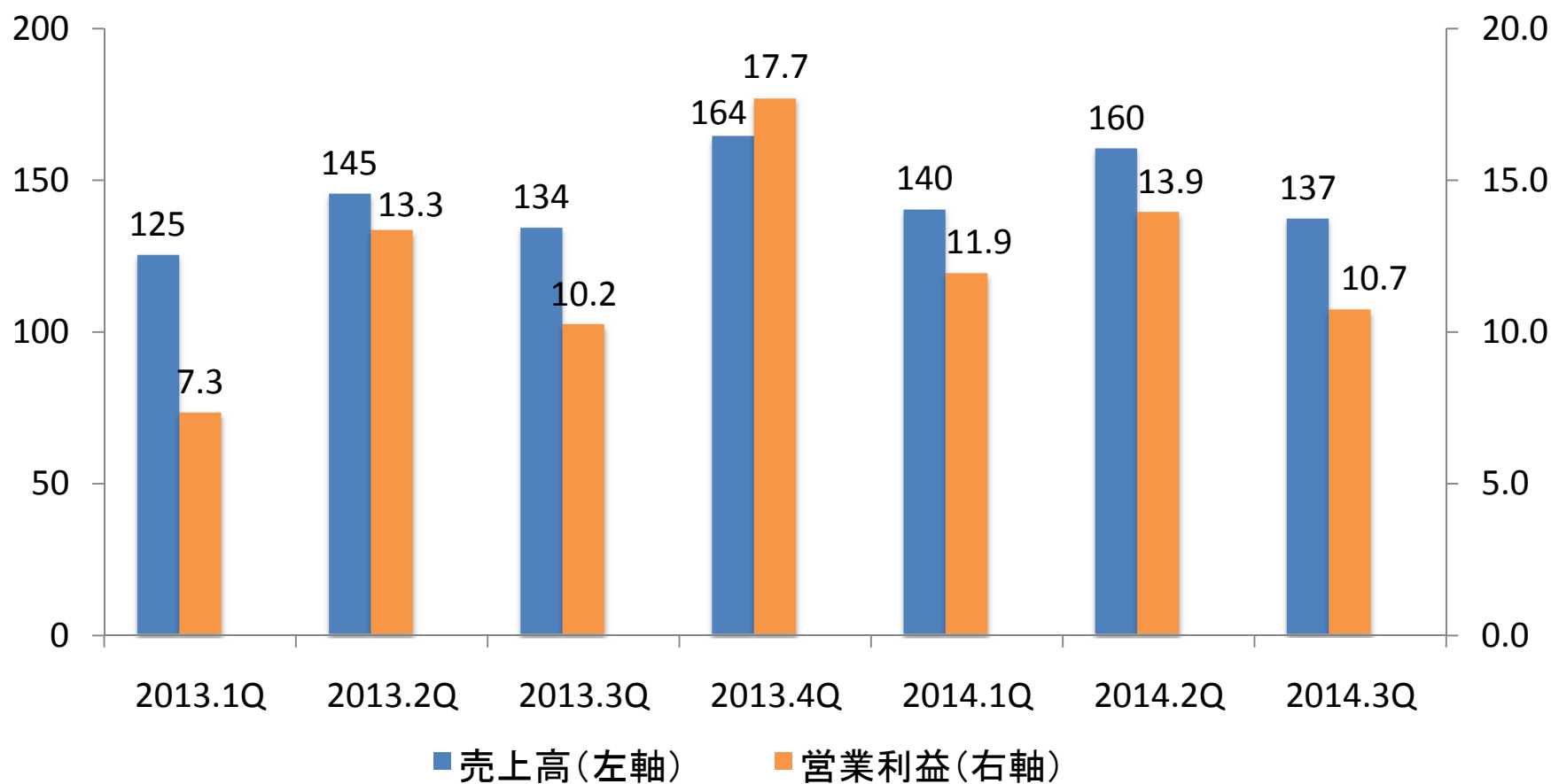
(億 円)



2. 業績推移 (四 半 期)

ライフアメニティー

(億円)



3. 業績予想(上期・下期)

(前 期 比)

(億円)

	2014年3月期 実績			2015年3月期 予想(10/31公表)		
	上期	下期	通期	上期(実績)	下期	通期
売上高	1,350	1,522	2,873	1,438	1,651	3,090
営業利益	78	124	202	105	104	210
経常利益	60	88	149	82	67	150
当期純損益	45	57	102	△805	55	△750
1株当たり純利益(円)	12.99	16.38	29.37	△231.40	15.82	△215.58
為替(円/\$)	99	102	100	103	(※) 105	(※) 104
国産ナフサ価格 (円/kl)	64,700	69,900	67,300	70,400	(※) 69,000	(※) 69,700

(※)2015年3月期予想(10/31公表)の為替、国産ナフサ価格も10/31公表のものを掲載

4. セグメント別業績予想(上期・下期) (前期比)

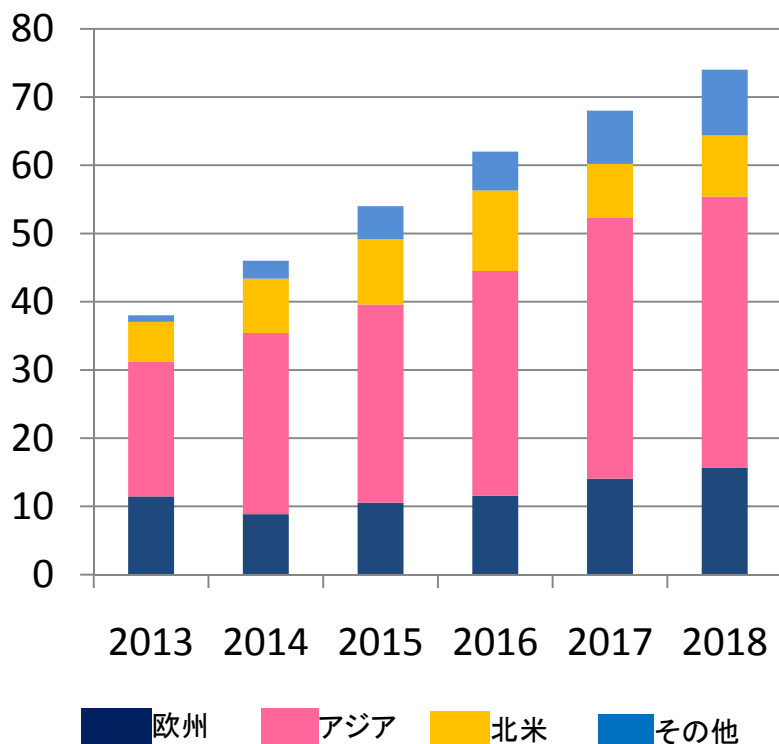
(億円)

	2014年3月期 実績						2015年3月期 (10/31公表)					
	上期		下期		通期		上期(実績)		下期		通期	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
化成品	415	7	448	14	864	22	439	24	520	20	960	45
特殊品	234	15	290	44	524	60	241	27	353	32	595	60
セメント	364	27	425	39	789	66	386	22	428	27	815	50
ライフアメニティー	271	20	298	28	570	48	300	25	279	19	580	45
その他	232	21	240	20	472	41	249	26	260	28	510	55
計	1,518	93	1,703	146	3,222	240	1,617	126	1,842	128	3,460	255
セグメント間 消去・ 全社費用	△168	△15	△180	△22	△349	△37	△179	△20	△190	△24	△370	△45
連結決算	1,350	78	1,522	124	2,873	202	1,438	105	1,651	104	3,090	210

5. 太陽電池市場動向

地域別太陽電池導入量予測

単位:GW



(注)IHS Market Tracker (PV Integrated) Q4 2014 のデータ等を基に当社予測

各国の状況

<中国>

- ◆太陽光発電産業の健全な成長の為の政策を公表、2017年までの累積導入目標を70GWに設定
- ◆2014年末までの太陽光発電累積導入量は26.5GW

<日本>

- ◆2012年7月の現行固定価格買取制度の導入以降、太陽光発電の導入量が急増
- ◆2014年は1-9月で2013年の導入実績(6GW超)を上回った

<米国>

- ◆様々な太陽光発電の普及政策が存在し、市場拡大を後押ししている。特に、大規模太陽光発電市場では、州レベルでの政策が市場を牽引

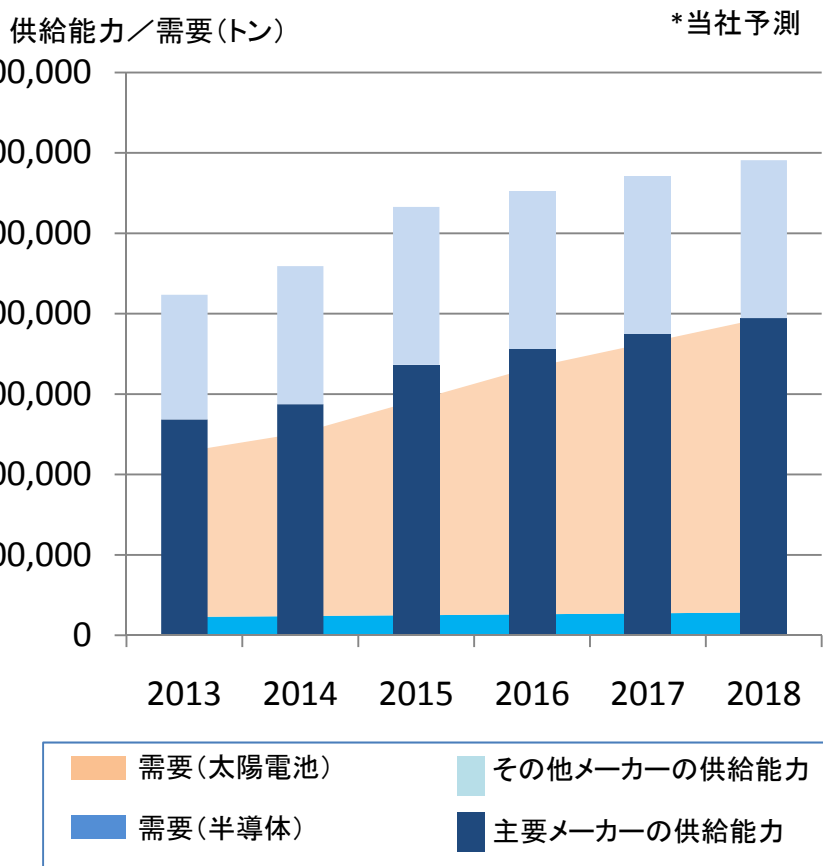
<欧州>

- ◆政策による支援縮小や終了が相次ぎ、太陽光発電市場は2014年もやや縮小した見込み。2015年以降は主要国の需要回復によって緩やかな成長トレンドに移行するとみられる

6. 多結晶シリコン市場動向

多結晶シリコンの需給予測

多結晶シリコンの需給予測



(注1) 主要メーカーは、IHSのTier1メーカー

(注2) 需要は、IHSを基に、当社予測

今後の見通し

<半導体向け需要>

◆タブレット、スマートフォン向けの需要拡大で年率5%程度の増加が見込まれる

<太陽電池向け需要>

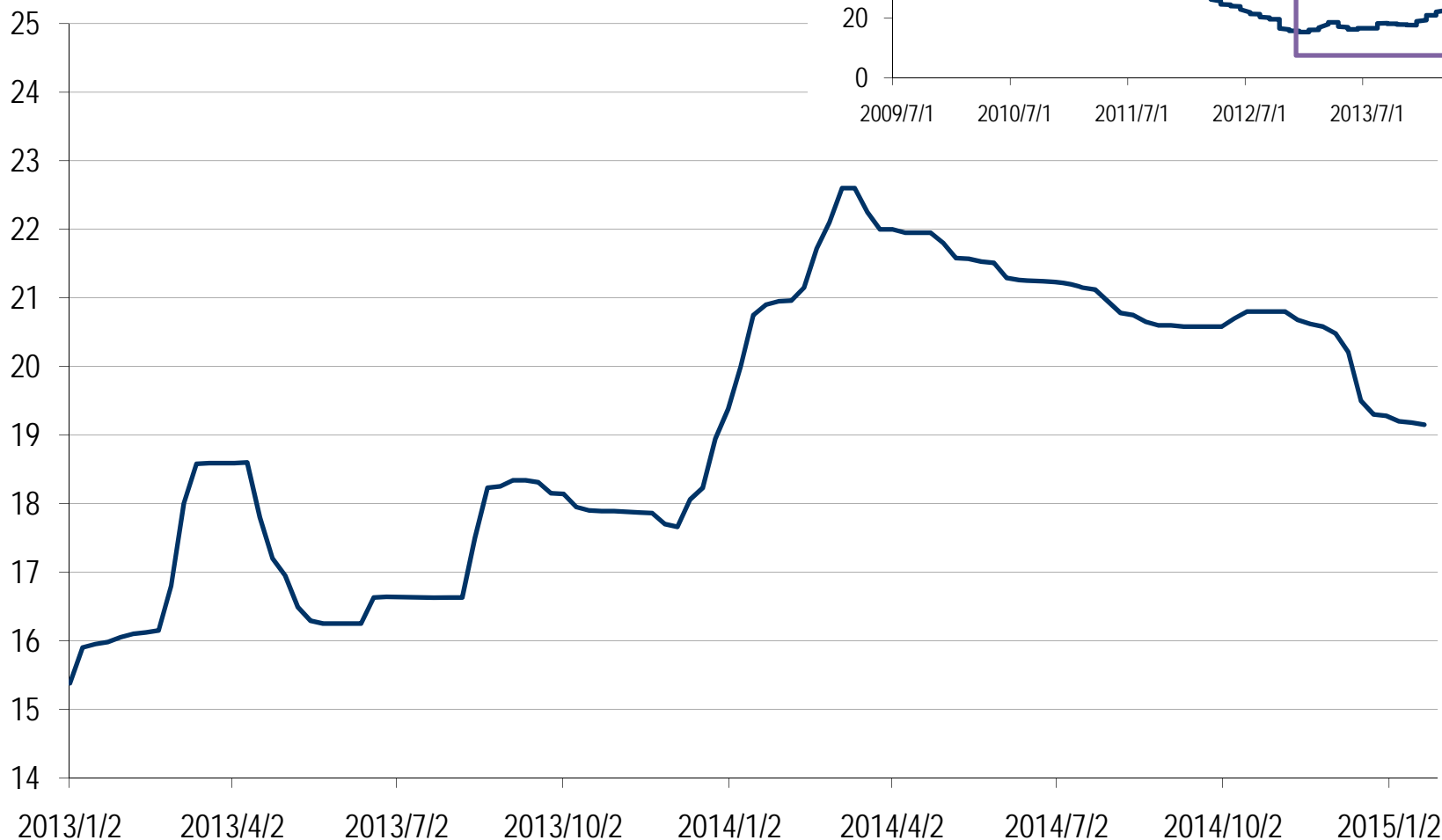
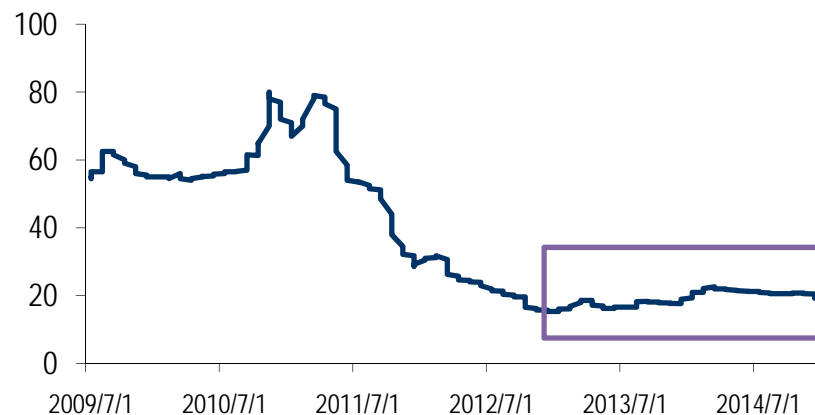
◆欧州では補助金削減等により太陽電池導入量が大幅減となるものの、中国、日本、米国等で積極的な導入政策による成長が予想され、年率15%程度の需要拡大が見込まれる

<供給サイド>

◆当面供給能力過剰の状況が続く。コスト競争力が生き残りのカギとなる

6. 多結晶シリコン市場動向

多結晶シリコンのスポット価格推移



出典: PV insights

本資料に関するご注意

本資料は情報提供を目的とするものであり、何らかの勧誘を目的とするものではありません。

本資料は現時点で入手可能な情報に基づき作成したものでありますが、不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。

本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じるいかなる損失に対しても、当社は責任を負いません。

Chemistry with a heart

TOKUYAMA

